

ICTを活用した性に関する指導教材の開発と実践 その2

～教材・指導案データベースの共有と活用講習の推進～

特別支援教育、性に関する指導、教材データベース

長野県稲荷山養護学校

〒387-0022
長野県千曲市野高場1795

<http://www.nagano-c.ed.jp/inayou/>

1. 研究の背景

稲荷山養護学校研究グループは、昨年度のパナソニック教育財団第41回一般助成を受け、特別支援学校の児童生徒を対象にした「性に関する指導用教材」を作成し、授業実践を行った。昨年度の申請時に研究の背景として「性教育バッシングによる性に関する指導の萎縮状態」と「支援者が抱えている危機感」という現状認識をあげた。この現状認識は基本的に今年度も変わらない。昨年度は「支援者が抱えている危機感」の具体として、ここ10年間の携帯電話やスマートフォンなどの個人用情報携帯端末の浸透による、性情報の氾濫、性行為の低年齢化、人工妊娠中絶の低年齢化、性感染症の拡大、障害者の性被害等の、多くの社会的課題を上げた。これに関しては、情報リテラシーの向上を目指した教育が進む一方で、そういった適切な情報教育からこぼれた子たちが受ける被害は、水面下で一層深刻化しているとも言えるのではないかと考えている。

このような背景から、学校教育での性に関する知識の習得と実践行動の習得については、学校種を超えた課題である。とりわけ言語理解や想像方面での困難が大きい、特別支援学校の児童生徒にとっては、性に関する指導は非常に難しく、一人一人の子に合った教材や授業カリキュラムの開発は急務である。児童生徒にとってわかりやすい教材と、教員が取り組みやすい環境を整えることで、性に関する指導方法の充実に引き続き取り組みたいと考えた。

昨年度の実践は、各種研修会や研究会で発表を行い、多くの反響を得た。その中から我々が開発した教材を共有し、独自の実践を行ってくれた学校、団体も出てきた。そこで今年度はその成果を踏まえて、さらに研究と実践の共有を深めることにした。

2. 研究の目的

本年度の研究の目的は

「性に関する指導にICTを導入することで、効率的かつ効果的な学習方法を提案し普及させる」である。昨年度の成果である

- ・ 児童生徒が理解しやすい性に関する指導用視覚支援素材の開発
- ・ それをベースにした教師にとっても扱いやすい電子教材
- ・ 活用授業実践を踏まえた「性に関する指導情報データベース」の構築

を踏まえて、今年度は以下の2点に重点を置いて実践をすすめる。

- ・ 性に関する指導用視覚支援素材、電子教材、データベースのさらなる充実と授業実践
- ・ データベースを用いた授業実践方法を外部へ広げるための、講習会の実施

具体的には以下のような活動を通して研究を行う。

- (1) 昨年度開発した電子教材と具体物教材のバリエーションを増やし、充実した教材環境を整える。
- (2) タブレット、PC、データベースとの連携により、個々の子の障害種、生活年齢や発達面、理解度に合わせた教材提供を行う
- (3) 開発教材は、校内のみならず、校外との共有も想定したデータベース化を進める。
- (4) 他校との意見交換と連携を進め、実地的な研究・実践体制を構築していく。

特に(3)(4)については今年度の研究の新たな視点である。具体的な実践方法を研修会で提案することで、各地域でより実践的な「性に関する指導」を志向している教職員・保護者・支援者との連携、情報共有が進められると考えた。

本研究では、以上の方法でここ数年来大きな刷新がなかった性に関する指導について、特別支援学校のみならず、通常学校でも活用可能な指導モデルを提案すると同時に、ICTを活用した指導と情報共有の効果を明らかにする。

3. 研究の経過

①時期	②取り組み内容	③評価のための記録
4月 ～ 5月	○性に関する指導用教材の開発 ・ 「指導用画像データ集」のデータ強化 ・ 「画像データ集」を元にしたマルチプラットフォーム用「教材データ集」の作成 ・ 教材と連動させる「指導用人形」の作成 ・ 「ICTを活用した性に関する指導案」の作成	
5月	○対象児童生徒の実態把握	
6月11日	○「性に関する指導の授業」講習会1(長野)	参加者アンケート
7月14日	○「ICTを活用した性に関する指導」実践授業1 ・ 昨年度の指導案集を改善。内容追加 ○授業分析と評価	ビデオ記録 ビデオ記録 授業者所感 (共有メモ) 生徒アンケート (学習カード)
8月7日	○「性に関する指導の授業」講習会2(福岡)	参加者アンケート
8月～9月	○校内および校外向け画像データベースの構築 ・ 上記「指導用画像データ集」「指導用教材データ集」「ICTを活用した性に関する指導案」を閲覧できるデータベースを再構築する	

10月	○「ICTを活用した性に関する指導」実践授業2 ○授業分析と評価	ビデオ記録 授業者所感 (共有メモ) 生徒アンケート (学習カード)
12月10日	○「性に関する指導の授業」講習会3(京都)	参加者アンケート
2月3日	○「ICTを活用した性に関する指導」実践授業3 ○授業分析と評価	ビデオ記録 授業者所感 (共有メモ) 生徒アンケート (学習カード)
3月	まとめ	

4. 代表的な実践

今年度の研究は、前述の通り、他校・他団体における実践からのフィードバックを積極的に取り入れた。各種研修会や学会発表で教材を紹介する際に、アンケートを配布して教材に対する意見を集約した。その中でも活用に積極的な意見を提供してくれた学校には、別途データを送付し、実際に行った授業実践の中から生まれた新たな意見をまた送ってもらうという連携を行った。

昨年度は、まず基本的な画像パーツを、研究代表者が開発用コンピュータ及びタブレットを用いて作成し、それをベースに教材開発担当教員がパワーポイント上に配置し、数種類のアニメーションと操作ボタンなどを付加し、簡単な提示用教材サンプルを作成した。それをカリキュラム作成担当職員共に確認し、並行して進めてきた授業展開案と合わせて、追加すべきデータや修正点を決め出していった。今年度はこの追加や修正に、外部の意見を取り入れることで、より幅広いニーズに応えることができるようになったと考える。

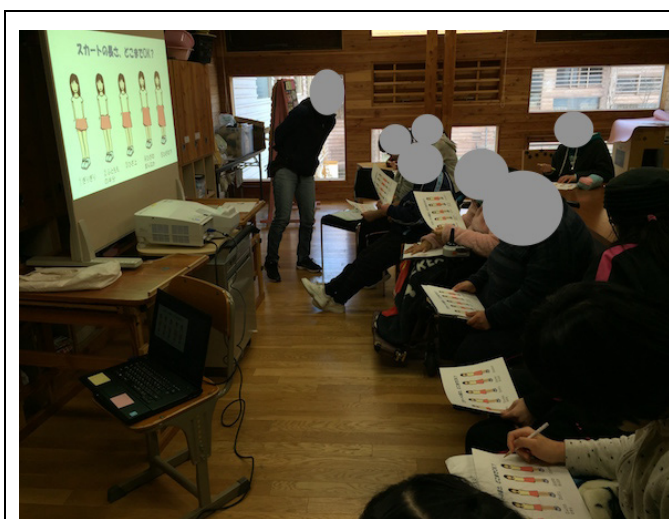
また、校内での実践でも、中核研究メンバー以外の教員が、より生徒の理解度に合わせてデータを自作する例が出てきたことも嬉しい変化であった。以下に掲げる授業展開案と授業風景の実例も、その中核メンバー以外の教員が作成したものである。

2月3日 性教育 女子のみのグループ 授業案
<<目標>> ① 前時学習内容「自分の身をまもる」を振り返り、男性の体や気持ちについて、スカートの長さについてなど、学習を思い出す。 ② この服はどうか？この着かたはどうか？この行動はどうか？など、男性の視点を考えながら、服の選び方、着かた、行動で気を付けることを考え合い、ロールプレイで確認する。

《展開略案》

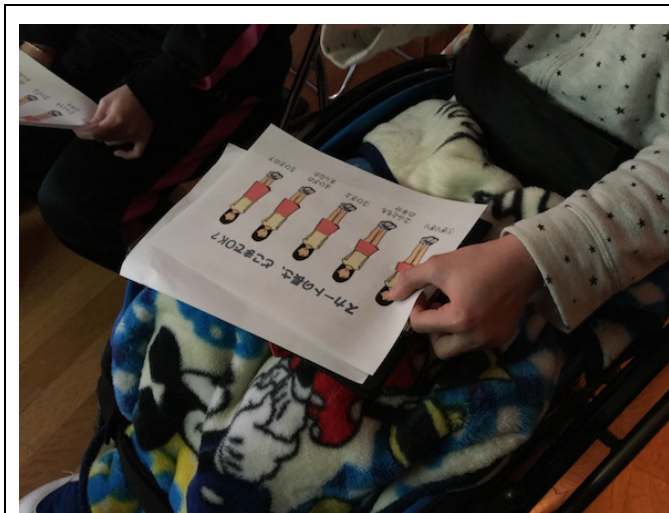
	学習活動	教材
導入	① 前回の授業で学習したことを思い出そう。 ・好きな気持ちがうまれたり、異性に近づきたい気持ちを持つたりすること、女性の服装によっては男性を誘っていること ・男性に無理に誘われた時の断り方	・パワーポイントスライド (前回の授業のダイジェスト)
展開	② この服はどうでしょう？ ・胸元開きすぎ、スカート短すぎ、見えすぎ ・下に何を着たらよいか、考える。 ③ この着かたはどうでしょう。 ・背中が見えている、胸の谷間が見えている、 ・座るとき、立つ時、どんなことに気をつければよい？ ・座るとき、人におしり・背中を向けない時、背中の中身が出てしまったら直す。 ④ この態度はどうでしょう。 ・男性の体をさわる、近くに寄る、上目遣い、猫なで声 ・こんな態度をされた時の男性の気持ちを考える。	・実際の服 (下に何を着たらよいか) ・パワーポイントスライド ・学習カード
まとめ	⑤ 自分自身の体をまもること＝自立していくために必要なこと ・感想記入	・学習カード

《次回》
出産の映像をみて、出産の大変さ、家族の喜び、いとおいしい命を感じる。 自分の名前に込められた親の思いを知り、いままで育ててくれたことへの感謝の気持ちを持つ。



授業 CT が独自に考え、データを自作した「正しい判断をクイズ形式で学ぶ」スライドの提示の例

授業で活用したところ、生徒の理解や反応が良かったので、その後このデータをデザインし直し、公開用教材データ集に追加した。



全体にはデジタルデータで表示しつつ、個々の生徒が自分の意見をまとめやすいように、手元には個別の学習カードを用意する。

5. 研究の成果

研究の目的と、それに対応する成果は以下の通りである。

目的①：性に関する指導用視覚支援素材、電子教材、データベースのさらなる充実と授業実践

成果：今年度の研究では、昨年度の成果に上乗せする形で、子どもたちが自分で操作できる教材を更に充実させ、学習効果があがったと考えている。昨年度の授業実践を通して、どのような授業においても、追究場面における「児童生徒が納得するための時間」の保証が非常に重要であるということが確認された。自閉症、知的障害、肢体不自由など、様々な障害種の児童生徒が混在する本校においては、その「納得までの過程」における情報提示や教材の適切な調整が重要かつ必須である。そのためにタブレットは非常に積極的に活用された。性に関する指導用の画像素材が充実したことで、タブレットでの表示はもちろん、アナログ教材（プリントやカード類）への転用がスムーズになった。



新規素材の例：体の洗い方手順カード用画像

目的②：データベースを用いた授業実践方法を外部へ広げるための、講習会の実施

成果：今年度は、校外での学習会や研究会で積極的に教材を紹介したことで、今後の実践や研究につながる連携を進めることができた。専用サーバによる公開も行ったが、短期間で内容更新や修正を行うには、SNSを利用したファイル共有で十分に目的を達することができた。ただし、有益なフィードバックをもらえた事例も多数あるが、一方通行の感想や要望のやりとりになりがちな面もあった。今後は教材改善への積極的な参加や、外部からの実践事例の公開を求めていくには、配布方法とフィードバック方法、成果の共有方法についてさらなる議論が必要だろう。

6. 今後の課題・展望

昨年度の成果報告で課題としてあげた、電子データの公開を全国レベルで行い、本校と他校の実践の共有を進めるという目標に関して一定の成果をあげることができた。全ての教育実践に共通することであろうが、年単位で成果を上げることはもちろん大切だが、それを複数年にわたって継続し、他者の評価を受けることで、内容を充実させていくことも大切である。そういった意味で、今後も「性に関する指導教材の充実」と「実践の共有」を進めていくことが、我々研究グループに課せられた最も大きな課題だろう。その点については、すでに複数の出版社から、今回提示した教材の画像とデータをまとめた書籍の出版を勧めていただいている。来年度以降はそのような形での一般公開を視野に入れて取り組みを進めていくことになるだろう。

7. おわりに

昨年に引き続き、今年も研究においても『性を「発達課題」として前向きにとらえる』という視点を意識して研究を進めてきた。ともすると我々は、子どもたちに学んで欲しいことをその時間の達成目標に据えた時点で、そこに到達することを第一義としてしまいやすい。子どもたちの理解がそこに到達しない場合、授業の進め方や教材の質の改善を先に考えてしまう。しかし、今年度の研究を進める中で改めて、子どもたち自身が学びたいこと、知りたいこと、表現したいことがあり、その実態把握こそが重要であることを感じた。特に「性に関する指導」は、社会的な忌避感と結びつきやすい領域である。前向きな視点、子どもたちの学び優先の視点を忘れずに研究を進めていきたい。

8. 参考文献

- ・性に関する指導の手引き 長野県教育委員会編（2014）